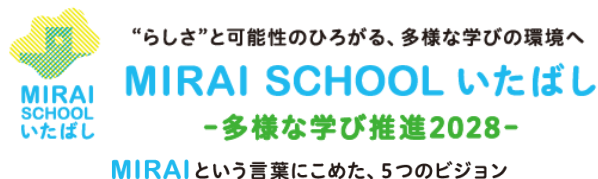


「MIRAI SCHOOL いたばし -多様な学び推進2028-」【概要版】

1 プラン策定の趣旨・位置づけ (P3~4)

「MIRAI SCHOOL いたばし -多様な学び推進2028-」は、「MIRAI SCHOOL いたばし -教育ビジョン2035-」での多様な学びに関する考え方を受け、子どもの特性や背景によらず、多様な一人ひとりの状況に対応した学びをめざし、「MIRAI SCHOOL いたばし -アクションプラン2028-」に基づく、多様な学びに関連する取組の推進、充実を図るために策定するプランです。



Motivation : 自分らしく進むチカラ	個性や背景に関わらず、千差万別な一人ひとりの子どもが、自分の強みを活かし、知りたいことを主体的に学べる機会がひろがる、多様な学びの環境へ。
Inclusion : 認め合って生きるチカラ	個性や状況が違って、子ども一人ひとりが、それぞれの多様性を認め合い、高め合い、対話や協働的な学びのチャンスがひろがる、多様な学びの環境へ。
Relation : つながり助け合うチカラ	子どもをまんなかに、学校や地域が連携し、子ども同士はもちろん、大人たちともつながり、ひろがる、多様な学びの環境へ。
Activation : 自ら行動を起こすチカラ	学ぶことへの興味や関心を出発点に、進みたい将来を思い描きながら、自ら取り組み、次へつながる可能性がひろがる、多様な学びの環境へ。
Innovation : ゼロから切り拓くチカラ	変化の激しい時代を生きる子どもたちが、未来を見据え、自分らしい豊かな人生を切りひらけるような、多様な学びの環境へ。

2 プランの背景 (P9~22)

- 令和6(2024)年度の不登校児童・生徒数は、1,180人(前年度は1,344人)であり、前年度と比較して減少したものの、不登校児童・生徒の学びの保障が喫緊の課題
- 特別支援学級等に在籍する児童・生徒、外国籍及び日本語指導を必要とする児童・生徒が増加傾向にあり、支援の充実が重要
- 子どもの特性や背景によらず、多様な一人ひとりの状況に対応した、個別最適、協働的な学びの推進が必要

3 めざすべき方向 (P25)

多様な一人ひとりの状況に対応した、子どもの学びを継続させるため、学ぶ内容・方法・場所の三つの観点からの工夫により、めざすべき方向を推進していきます。

内容の観点からの工夫	一人ひとりの学習進度や習熟度に応じた取組、教科横断的な取組など
方法の観点からの工夫	個別学習、グループでの協働学習、オンライン学習、学年の枠を超えた協働的な学習など
場所の観点からの工夫	教室、校内の教室以外の居場所、フレンドセンター、メタバース空間を活用したオンライン空間など

4 実現したい多様な学びの環境 (P26)

めざすべき方向を踏まえ、「実現したい多様な学びの環境」を以下のとおりとします。

多様な学びを通じて、さまざまな個性をもつ児童・生徒が、
自らの個性や能力を伸ばし、困難を乗り越え、人生を切り拓き、
成長と幸せを実感できる環境

「実現したい多様な学びの環境」のアウトカムイメージ^注は次ページ参照

注 アウトカムイメージ:「実現したい多様な学びの環境」が実現した際に起きている成果のイメージ

5 重点戦略・取組（P27～35）

実現したい多様な学びの環境

多様な学びを通じて、さまざまな個性をもつ児童・生徒が、自らの個性や能力を伸ばし、困難を乗り越え、人生を切り拓き、成長と幸せを実感できる環境

重点戦略 1 学びを続けるうえでの、様々な選択肢の提供 ～ 不登校児童・生徒の社会的自立を支える多様な学び ～

- 取組1-1 教室以外の居場所の充実
- 取組1-2 フレンドセンターの充実
- 取組1-3 不登校または不登校傾向の児童・生徒の保護者支援

重点戦略 2 様々な背景をもつ子どもに応じた個別支援の強化 ～ 発達特性や外国籍などの背景をもつ児童・生徒に対応した多様な学び ～

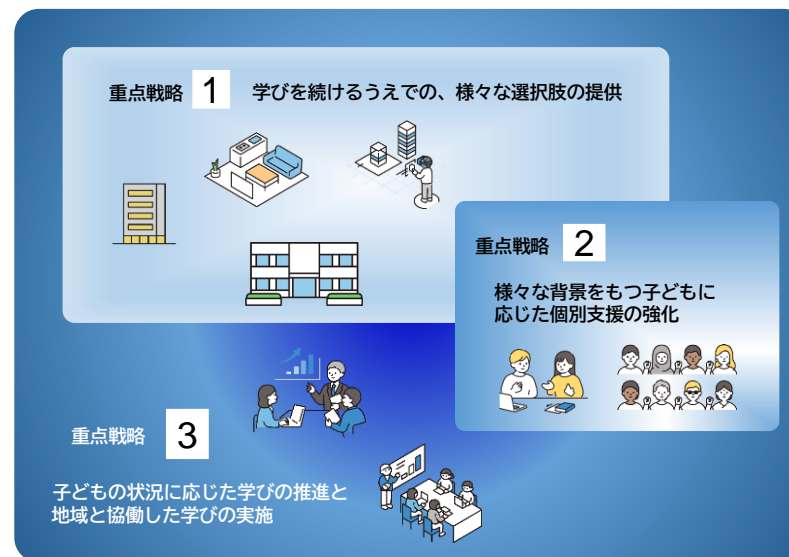
- 取組2-1 発達特性をもつ児童・生徒への多角的な支援
- 取組2-2 外国籍の児童・生徒及び日本語指導を必要とする児童・生徒への支援

重点戦略 3 子どもの状況に応じた学びの推進と地域と協働した学びの実施 ～ 様々な教育的ニーズに応じた児童・生徒の多様な学び ～

- 取組3-1 多様な児童・生徒に合わせた主体的・対話的で深い学びの推進
- 取組3-2 地域とともに取り組む多様な学びの実践

共通項目 取組 国・東京都への働きかけ

3つの重点戦略のイメージ



多様な学びの環境のアウトカムイメージ

